

# 地域別懇談会 意見一覧

資料 2 - 4

※ 対応方針は、現在検討中です。

No.	地域	該当箇所	意見内容
1	県北	計画書全体	放射線問題で活用できなくなった「里山」について、今後、どう生かしていくかが、県北も県全体も問われてくると思う。
2	県中	計画書全体	大学受験生が安心して本県へ来られるよう、就業先の情報や奨学金の拡充など、体制づくりが急務。
3	県中	計画書全体	被災の事実や対応を全面に出した情報発信が必要。本県が被災しているという事実が風化していく。
4	県中	計画書全体	医療・福祉系の「人の教育」の視点を、計画に付加してほしい。学生や家庭へのサポートがあって、始めて医療体制が充実してくる。
5	県中	計画書全体	高齢者が、最後に亡くなる場所をどこにしていくのか(在宅・施設)という方針を、計画に盛り込んでほしい。
6	県中	計画書全体	仮設住宅退去後の不安解消のため、復興住宅を始めとした生活の道すじを示す具体的な記述を求めたい。
7	県中	計画書全体	「安全」は証明できるが、「安心」の証明は難しい。給食に県産食材を用いるなど、安心の証明を地元からつくるべき。
8	県中	計画書全体	食の「安全・安心」を確保する施策として、「食品添加物」「残留農薬」「放射線」に加えて「種の保全」を。
9	県中	計画書全体	子どもが年相応の運動や遊び、学校では学べない体験が少しでもできるような環境づくりをお願いしたい。
10	県中	計画書全体	計画には、東西軸の高規格道路を整備するという踏み込んだ記載がほしい。
11	県中	計画書全体	復興のため、農地転用手続きを簡略化するなど弾力的な運用ができるような制度を。
12	県南	計画書全体	県外において、県産農産物の安全性について正しく理解されていない現状がある。正しい知識を持ってもらうための取組も必要では
13	県南	計画書全体	(富岡町の方を例に)ふるさとには帰れないが、県内には残りたいという方がいる。このような方々を支援していく必要がある。
14	県南	計画書全体	将来にわたる子どもの健康保障など、地域の子どもの大事にする視点が足りない。放射線に関しても正しい知識を学ぶ機会を設けて欲しい。心のケアも必要。
15	県南	計画書全体	地産地消、特にエネルギーの地産地消が必要。エネルギーの地産地消は、原発問題、省エネルギー、地域発展の3課題を解決することに寄与できると考える。
16	県南	計画書全体	まだまだ働ける、元気な高齢者が多い。資料1「福島県総合計画改定中間整理(案)【概要版】」の第3章に「高齢者が夢や希望を持てる生きがいづくり」とあるが、生きがいに繋がっていくような高齢者の働き口がない。この実現をお願いしたい。
17	県南	計画書全体	(原子力災害などが)忘れ去られることが危険。忘れ去られないようにする取組や復興の施策を出してもらいたい。
18	県南	計画書全体	外国のように一般家庭の方が希望するお年寄りを受け入れる制度は理想的。国の制度にないものを県オリジナルで取り組むことも必要なのではないか。
19	県南	計画書全体	本県は、3つの地域(浜・中・会津)に分かれている、3つの地域それぞれの特色を出していくとよいと思う。また、3つの地域があることをキャッチコピーにするのもよいと思う。
20	県南	計画書全体	「企業は人なり」。人材がいないと企業は進出してこない。県南には大学がない。誘致運動も必要ではないか。誘致がダメならば、県立農業短大を4年制の総合大学に拡張してはどうか。
21	会津	計画書全体	人口流出が一番の問題。この対策を意識的に目玉事業として見せるようにしてはどうか。
22	会津	計画書全体	経済を回復させるのに一番手っ取り早いのは企業誘致である。企業立地補助金も拡充して雇用の場を創出してもらいたい。
23	会津	計画書全体	子育て支援センターの充実など地域で子育てできる体制や、共働き家庭への子育て支援が必要である。
24	会津	計画書全体	自分の住んでいる故郷のことを知らない子どもが多い。まずは県内の人々が県内を歩き、福島をもっと好きになったり、郷土に誇りを持ってもらうために低料金の観光プランなど支援してもよいのでは。
25	会津	計画書全体	コーディネーター、地域のキーマンを育てるのは大事なこと。
26	会津	計画書全体	安い料金で夏休み・冬休みを利用して福島県に来られるように、家族割やシニア割を設定し、収穫体験をしてもらう等の取組をしては

※ 対応方針は、現在検討中です。

No.	地 域	該当箇所	意見内容
27	会津	計画書全体	農業の後継者に胸を張って後を継いでくれと言えるような方向性を示してもらいたい。
28	会津	計画書全体	会津は意外と住宅物件の相場が高めである。若者が住みたいと思える住環境を整える必要もある。(ルームシェアや安い物件)
29	会津	計画書全体	山都町ではターン者が多い。コミュニティがしっかり働いているからだと思う。定住するためにはコミュニティが大切である。
30	会津	計画書全体	観光地のコンシェルジュ、コーディネーターが少ないので、リーダー養成講座などの施策をお願いしたい。
31	南会津	計画書全体	南会津病院の精神科を充実させるため、一度引退した先生を呼ぶという方法もある。「田舎に住んでもいい」という考えの人もそれな
32	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	がれきの撤去や仮置場について見通しが立っていないので、県も入ってスピーディな対応をお願いする。
33	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	大柿ダムは水質には問題ないが、山林に囲まれ線量が高い。国に除染の依頼をし、調査、整備を進めるべき。
34	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	風評被害は深刻で、農地が復旧して米を作っても売れるのか。米に代わるものの方向性を県で示すべき(燃料用の作物を作るなど)。
35	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	南相馬内だけでなく、地域を跨いで各業界団体の話し合いを実施すべきであり、県にその場を設けて欲しい。
36	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	阪神・淡路大震災では数年後に子どもの犯罪が増えたとも聞いている。今は何でもなくとも長い目でのカウンセリングが必要。
37	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	原発は廃炉までの間に大きな地震が来たときに耐えられるかどうか不明であり、信頼される情報の伝達や道路の整備等の備えをしておかなければならない。
38	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	放射能被害についてしっかりと認識されていない。放射能に対するリスクコミュニケーションが今後の課題である。
39	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	雇用・住宅政策だけでなく、地域に戻って人生設計ができるような仕掛けづくりが課題である。
40	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	福島が再生しているというアピールがもっとあっていい。プラスのイメージがないと子どもたちがかわいそう。機関を誘致するもの良いし、世界に向けて隠すのではなく発信する福島でなければならない。
41	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	企業誘致については、一つの企業に何億もかけるより、地元の人が細く長く生きていけるような予算の使い方が必要。
42	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	避難中に亡くなった人が多くいた。一斉に避難させるに当たっては、他県からの応援が必要であったのではないか。
43	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	被災した子どもたちの心のケアのために、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの配置を進めて欲しい。
44	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	常磐自動車道、国道6号線などの道路整備を早急に行って欲しい。
45	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	仮の町については、県が国と市町村の間に立って、もっと積極的に取り組むべきである。
46	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	復旧・復興に向けて必要なのは除染である。地元の農産物を自分で食べて、販売することが目安。地元の企業、住民と一緒にやって除染を行うことが地域の復旧・復興につながる。
47	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	除染と一緒にインフラ整備を行うことが早期帰還につながる。
48	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	人口減少を食い止めるためには、結婚を支援する仕組みづくりが必要。
49	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	原発について、再稼働や新たな建設の動きがあるが、我々の現状を全国に発信し、廃止に向けた声を上げなければならない。
50	相双	計画書全体	企業立地の推進に力を入れて欲しい。働くところがないと若い人は居らない

※ 対応方針は、現在検討中です。

No.	地域	該当箇所	意見内容
51	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	帰村するに当たっては、プラントの不安定さが問題であり、万一何かあった時にはそれぞれの市町村に直接連絡することとして欲しい。また、県は避難先を決めておくべき。
52	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	計画書全体	家族の負担を軽減するためにも、ショートステイを気軽に利用できるようにしていく必要がある。
53	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	国道115号や常磐自動車道などの道路の復旧が必要。
54	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	計画書全体	常磐線が使えないことで仙台方面へ通っていた人の不便さは図りしれない。また、福島への道路も整備されていない。こういうことから人口減少が生じる。
55	相双 (広野・楡葉・富岡・大熊)	計画書全体	郷土愛を喚起し、ふるさとを忘れさせない教育をくどいくらいやる必要がある。
56	相双 (広野・楡葉・富岡・大熊)	計画書全体	JFAアカデミーふくしまを、広野町、楡葉町でなくてよいので県内に移して欲しい。
57	相双 (広野・楡葉・富岡・大熊)	計画書全体	(復興は)長期戦になるのは間違いないので、教育には力を入れてもらいたい。
58	相双 (広野・楡葉・富岡・大熊)	計画書全体	双葉郡の福祉法人や医療法人を仮の町で再開してもらう支援をする考え方もあるのではないかな。
59	相双 (広野・楡葉・富岡・大熊)	計画書全体	学校教育の中で、地元で働けるような資格を取らせる発想があってもよいのではないかな。
60	いわき	計画書全体	今後子どもたちを始め、県民のメディカルチェックをどう進めるかは大きな問題。
61	いわき	計画書全体	農産物のモニタリング検査は大事で、可視化は重要なことである。一方で処理できる能力には限界があり、1日で900袋くらいしかできないと聞いている。効率的な方法、体制を整備する必要がある。
62	いわき	計画書全体	農業の25年～30年を見据えると、集団化というのは避けて通れない話。しかし、機械の購入には二の足を踏んでしまうのが実態。リースなどへの支援、補助を検討してもらいたい。
63	いわき	計画書全体	これから計画をつくっていくにあたっては、生まれてから亡くなるまでのライフステージで施策を考えていく必要があると思う。子どもからお年寄りまで、そのステージに応じた施策が必要。特に、保健・医療・福祉については、トータルシステムで考える必要がある。それに加えて、土木、農業、産業を計画の中に位置づけるというようなまとめ方はできないものか。
64	いわき	計画書全体	用語解説については、取って付けた感がある。横文字の用語や災害用語など、もっと書き込んでもいいのではないかな。
65	いわき	計画書全体	観光については、福島県の浜、中、会津で横断的に取り組む必要がある。観光のネタはいろいろある。
66	いわき	計画書全体	賠償もいつまで続くかわからない。これからは、付加価値の向上や衛生管理をしっかりすることで売り込む必要がある。漁業者が不利益を被らないような支援の仕組みが欲しい。
67	いわき	計画書全体	災害初期と今では必要な対応が異なるところも出てきている。臨機応変な対応をして欲しい。
68	いわき	計画書全体	どんなに数字で安全を示されても、安心できていないのが現状。いかにして安心を与えていくかが重要。
69	いわき	計画書全体	(まちづくりにあたって)新しい組織体というのが求められていると感じている。そのための音頭を取るのには行政(県や市)ではないかと感じている。まちづくり会社の設立など責任を持てる組織の育成が必要であり、パートナーシップを構築していくことが大事。そういったことを総合計画の中にも盛り込んでもらいたい。
70	いわき	計画書全体	どこにどういふ社会資源があるのかという情報、データを整理する必要がある。ハンディキャップを持った人、元気のある人、時間に余裕がある人など向けに整理して、基礎データの窓口を一本化する必要がある。
71	いわき	計画書全体	避難者との問題については、コミュニティをどう構築するかが課題。地元どうまくコミュニケーションを取っていく必要がある。賠償の相違などで対立が生じないように。いわき市の大きな課題であるが、県全体としても取り組んでいく必要がある。



※ 対応方針は、現在検討中です。

No.	地 域	該当箇所	意見内容
72	県北	第4章(地域)	県産農産物の安全性について、安心と感じるかどうかは人それぞれ。理解されていない現実がある。
73	県北	第4章(地域別)	国や県の事業(就業支援事業等)は、単年度予算のためか、1年単位で継続性がない。3年程度は寄り添わないと、若者(の就労支援)は一人立ち出来ない。1年で職を失い、また別の新しい仕事となり、将来が見通せないのが現状。柱の「活力」は、人が仕事を持って活力ある地域とすること。震災後、痛切に感じる。
74	県北	第4章(地域)	県北地域は浜通りにも近く、通える位置でもある。帰還できるまで生活基盤を県北に整えるという形での二地域居住もあるのではない
75	県北	第4章(地域別)	日本有機農業学会の各先生が現地調査しており、膨大な研究成果がある。それを県内全体で共有する仕組みが必要。 米の全袋検査など、福島県産が東日本では一番安全であると、そろそろ反転攻勢をかけてもよいと思う。我々はこうした体制で徹底的にやっていると逆の宣伝をかけてはどうか。
76	県北	第4章(地域)	放射線を逆手にとって、廃棄物等を封じ込める機械・装置など、本気で研究し、それを外に打っていくことも考えられる。
77	県北	第4章(地域)	放射線問題で活用できなくなった「里山」について、今後、どう生かしていくかが、県北も県全体も問われてくると思う。
78	県北	第4章(地域)	農産物等のモニタリングでNDでも、心配している人もいることは事実。
79	県中	第4章(地域)	地元の歴史や伝統文化を継承できるよう、お年寄りが伝承者等として活躍できるような場をつくってほしい。
80	県南	第4章(地域別)	地域の特徴の部分で、産業の書きぶり「半導体関連産業、輸送用機器関連産業などが集積」は、現在では形が変わってきているのではないか。修正した方が良いのでは。
81	県南	第4章(地域)	グラフデータの統計年がない。
82	県南	第4章(地域)	課題の①で、「産業の集積」だけではダメ。その後の「定着」が大事。
83	県南	第4章(地域別)	課題の②で、「質の高い産業」とあるが、どういうものを示しているのかわからない。また、「企業の要望に応える人材」とあるが、企業の要望に応えるだけでよいのか。そのような考えだから、簡単にクビを切られているのではないのか。文章をもう少し書き込んだ方が
84	県南	第4章(地域)	課題の③で、「原子力災害により」とあるが、その前からこの地域は低迷が続いている。
85	県南	第4章(地域別)	主要施策の②で、「職業体験」とあるが、地域にある限られた職業の体験ではなくて、地域を飛び越えた職業体験が必要。もっと文章を書き込むべき。また、「質の高い生産活動」とあるが、具体的に書いた方がよい。
86	県南	第4章(地域)	主要施策の④で、「路線バス」の施策があるが、西郷村では循環バスができたものの、誰も乗っていない。市町村等への指導も必要
87	県南	第4章(地域別)	魅力あるまちづくりが必要と言われているが、心の面の充実が足りないのではないかと。もっと心を満たす何かがあれば、若者が定着していくのでは。心を満たすものは何かと考え、NHK交響楽団を招聘し、ミニコンサートを開催した。ほぼ満員。来場者の満足度は非常に高かった(翌年も実施)。このような取組がもっと必要なのでは。また、施設を持っていても、活用しなければ無駄使い。どうやって活用していけばいいのかを十分に検討する必要がある。
88	県南	第4章(地域)	課題の中に「福祉」という言葉が見当たらない。高齢者が多いことも福島県の特徴と感じているので、福祉の充実に取り組んでもらい
89	会津	第4章(地域)	奥会津の町村は、只見線全線開通を強く要望している。
90	南会津	第4章(地域)	自然がキーワードになるが、価値付けしブランド化する必要がある。
91	南会津	第4章(地域)	過疎振興には、関東から教育機関の誘致による教育的な振興が重要。
92	南会津	第4章(地域)	過疎振興には、よそ者が入らないと立ちいかない。いかに取り込んでいくか。
93	南会津	第4章(地域)	西部地区の救急医療体制を構築しなければならない。会津若松への搬送は緊急を要する症状の場合に時間がかかりすぎる。
94	南会津	第4章(地域別)	町営のスキー場が廃止の方向との報道が流れたが、冬期間の就労を確保する必要がある。
95	南会津	第4章(地域)	国有林の伐採がなくなったことによる原材料の不足により木工業が廃れることが起こっている。伝統産業を存続させたい。
96	南会津	第4章(地域)	授業に歌舞伎を取り入れるなど、地域の人々が地域の良さを知ることが大事。

※ 対応方針は、現在検討中です。

No.	地 域	該当箇所	意見内容
97	南会津	第4章(地域)	南会津は農業が中心になるが、南郷トマトのように生活できる(所得がある)産物が重要。どのように拡大していくか。
98	南会津	第4章(地域)	野岩鉄道の高速度を図ることにより、観光客を呼び込むことができる。
99	南会津	第4章(地域)	大内宿が有名になったのは、技術やしきたりの継承ができているから。伝統の継承も重要。
100	南会津	第4章(地域)	観光客に地域の良さを知ってもらい、後々の二地域居住につなげる、観光から二地域居住への展開も必要。
101	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	第4章(地域別)	介護の現場で働く若い人を受け入れるための環境づくりの支援をお願いしたい。
102	相双 (相馬・南相馬・新地・飯館)	第4章(地域別)	県道原町・川俣線が混雑しており、事故が増加している。改善をお願いする。
103	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	第4章(地域別)	エネルギー政策については、洋上風力、太陽光発電、木質バイオマスの外、水力や小水力を盛り込んで欲しい。
104	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	第4章(地域別)	農林水産物は作るだけでなく、出口(流通)はどうするのか戦略的に考える必要がある
105	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	第4章(地域別)	郷土芸能を保存していきたいので、支援をお願いしたい。
106	相双 (川内・双葉・浪江・葛尾)	第4章(地域別)	過疎対策については、これから農業をやりたい人のために土地の提供をお願いしたい。
107	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	相双保健福祉事務所の業務をいわきで代行できるようにならないか。
108	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	相双といわき間のインフラ(道路)整備を早くして欲しい。
109	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	震災後、避難に時間がかかったので、今後の安心のため交通網の整備をお願いしたい。
110	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	復旧は全て元に戻そうという発想ではなく、再構築させる考え方が必要(例えば、小学校の再開に当たって、2つを1つに統合するなど)。
111	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	介護施設は病人が出た場合に医師との連携が必須であるが、今まで通り連携がとれるのか。
112	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	従来のコミュニティーを大事にしなければならない。 元の町の人々とのつながりを大事にしている。元の町の人という雰囲気がなくなることが心配。
113	相双 (広野・楢葉・富岡・大熊)	第4章(地域別)	震災前から双葉郡の医療職、福祉職の人材は不足していた。今後の確保が困難。また、浜通りの医療職、福祉職の復帰率が低いので、いかに現場復帰させるか。
114	いわき	第4章(地域)	医師不足の問題があるなかで、安全・安心を確立していくためには医療を充実させていく必要がある。
115	いわき	第4章(地域別)	実害もあるが、風評被害があり、安全・安心の担保が必要と感じている。払拭するためにもいわきの実情を発信していくこと、また、いわきに来てもらうという視点が大事。
116	いわき	第4章(地域)	今、海には実害があるが、それに変わる形での海の活用(洋上風力発電等)によって産業振興や地域の活性化に結びつけて欲しい。
117	いわき	第4章(地域)	長期的なことも大事であるが、即効性のあるものも打ち出してもらいたい。例えば、交流、観光。
118	いわき	第4章(地域別)	短期間で導入できる再エネはないかということで、今、考えているのは、液化天然ガス(LNG)を活用した火力発電所。(今の石炭による火力発電設備に)少し設備を加えるだけで対応でき、安価に発電できると聞いている。これにより、双葉から避難されている方々の雇用創出にもつなげられればと考えている。
119	いわき	第4章(地域)	観光については、いろいろな分野とのタイアップが必要と感じている